

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人 田村佐起三〒六〇四 八〇一三
京都市中京区蛸薬師通河原町東入
電話 (〇七五) 二五三・〇七〇七

《揺れる情(こころ)》通信④》

稲荷山武田病院院長 土屋宜之／元京都医療センター外科部長

「もう死なせてください」の一点張りになったFさん。それでも勇気を出して気分転換と気持ち良い朝の空気を吸うために車いすで散歩に出かけていました。しかしFさんの顔にはもう微笑みは現れません。実はFさんは最期に私を救ってくださったのです。

「先生、やっと明日お迎えが来ます。苦勞をかけて、ごめんさいね。ありがとございました。私は「それはよかったねえ」と言ってしまう。多分本当に良かったという表情だったと思います。Fさんは長い時間、合掌していました。そして本当に翌日の陽が沈む頃に永眠されました。人間は自分の最期の時期に安心感に包まれますとお迎えが来るのが分かるのかもしれませんが、S・ジョブスさんも自分が死んでも自分の「意識」はこの世に残るかもしれないと言っています。安心感に満たされた情(こころ)がこの世に存続する事を願います。反対に暗闇に包まれた情が残らないように頑張っていると思います。合掌。

《昏るに、日はのこりて》

田村 佐起三

『高付加価値品か通常品か』

1980年春、西独インターストッフ初出展後、PARI GAP誌の吉永駐在員にラファイエット百貨店バイヤーを紹介され「高付加価値か通常品か、SAKIZOは前者、ブティック出店を勧め」といった話を載しました。

1984年にユニクロが産声を上げ、40余年を経て今や通常品を超え世界トップ・シェアを誇るに至っています。

SAKIZO「ちりめん洋服」は1972年夏に心斎橋PARCOを皮切りに、西武百貨店他へはF&C展開、専門店展開。1987年に小泉グループの株主KKC小島社長と和装市場のライセンを開発を目標に掲げ、大松株小澤社長、ワタイク株鳥居社長と力を合わせ市場展開し好評寡占を得ました。

その頃、ある呉服問屋の展示会場で強引な販売により警察沙汰となる事件がありました。この一件でパリでの教訓から市場の終焉を感じ取り、ライセンス契約の更新をせずに「ちりめん洋服メーカ1」を2005年に私の還暦をもって卒業する事にしました。

《墓》とは》

常楽臺住職 今小路 覚真

時の流れは、私達のこれまで培ってきた日常生活でのさまざまな馴れ親しんだ場面を、一方的に、そして強引に押し流していきます。

経済の都市部への偏在、それに伴う郡部からの一方的な人流による過疎化など枚挙にいとまがありません。こうした動きに大きく働いたのが、交通手段の高速化と簡便化でした。

こうした交通手段の変化は郡部からの人流の早さに拍車をかけました。出ることに便利になったのなら、帰ることも便利ははずですが、人流は出る方通行になってしまいました。その結果が墓の在り方に大きな変化をもたらしました。「墓しまい」です。

故郷の墓を都市部に移すのがほとんどですが、墓そのものを持たないことを、この移転を機会に望む人もおられます。「墓」はそもそもお骨の収容だけが目的ではないのです。わたしのいのちの流れを知る大切な標しなのです。わたしが生まれた意味、わたしがいのち終える意味を教えてください。他にはない標しなのです。

《トリユフについて》

イタシヨク 福村直

トリユフは日本語で西洋松露と呼ばれ、キャベア・フオアグラと並び世界三大珍味の二つとされているキノコです。トリユフという名称が文献で認められるのは紀元前16世紀。地中から現れる強烈な香りの奇妙な食べ物として消費されていましたが、時代によって悪魔や魔女の食べ物と定義される事もありました。

地中で成長し収穫が難しく、トリユフを好む豚や訓練された犬を使って探し出します。「食用のダイアモンド」として重宝されていますが、食用として有名なのは黒トリユフ、夏トリユフ、白トリユフ。黒トリユフはダイアモンドカットのような表面を持つことから黒いダイアモンドと呼ばれ、広い範囲で収穫されます。白トリユフは他を圧倒する最高級食材になりその多くはイタリアのピエモンテ州アルバで採れ、過去最高金額はついで2千万円を超える金額になったこともあります。

健康レシピ

栄養士 國松美也子

《10月レシピ》

根菜が美味しい季節になりますね！

牛肉と牛蒡のしぐれ煮

材料：牛肉スライス300g、牛蒡1本、生姜2センチ角ぐらい

調味料：ごま油大さじ1、砂糖大さじ2、濃口大さじ1、酒少々

①牛肉は3センチぐらいに切りほぐす。

②牛蒡はさがきにします。

③生姜は千切りにする。

④フライパンにごま油をひき、中火にし牛蒡、生姜を炒め牛蒡が少ししんなりしたら、牛肉を入れ炒める。牛肉を炒めながら、お酒、砂糖を入れて炒め牛肉に火を通す。

⑤最後に醤油を入れて味を整える。

★ご飯にのせたり、卵焼きの具にしたり、いろいろなアレンジに使えます！

《大原流声明雑話③》 實光院住職 天納玄雄

法華経八巻を講説する論義法要が数日間修される場合においては、第五巻を主題とする御中日は「五巻の日」とよばれる。ここで「法華讃嘆」を唱える際には、出仕の僧侶たちによる大行道が行われることがある。同音に声明を唱えながら散華を撒き、道場を周回するのである。

僧侶たちとは別に天秤棒を担う数名の俗人が列に加わることもある。この役についた者は法華讃嘆の法華経を 我が得しことは 薪こり

菜摘み水汲み 仕えてぞ得し

の詞章に併せて水を汲んだ釣瓶・薪炭・菜籠をそれぞれ担い、僧侶に交じって道場をめぐる。

現代においてこの大行道の様子は、延暦寺大講堂で四年に一度修される法華大会で見ることが出来る。